

第2回 橋本市インターネット政策モニター結果(ボランティア活動について)

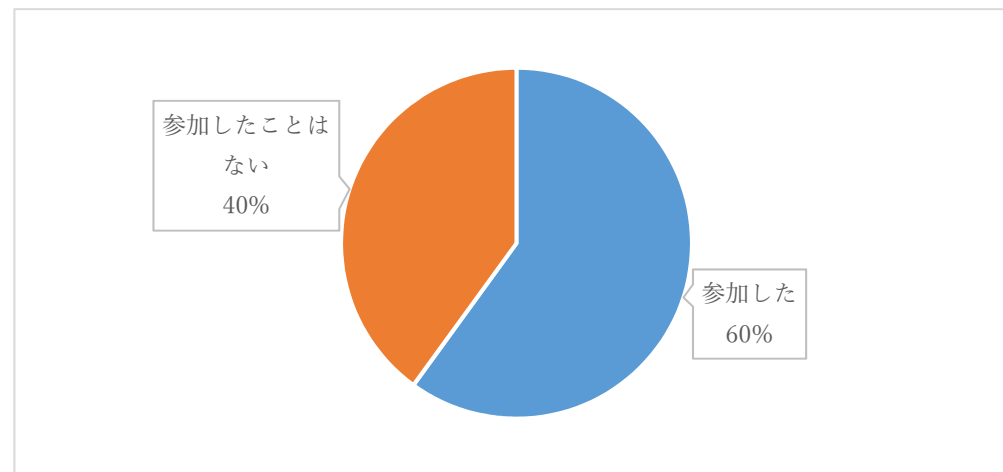
回答期間 平成29年9月11日～9月25日(15日間)

回答依頼者数 30名

回答者数 15名

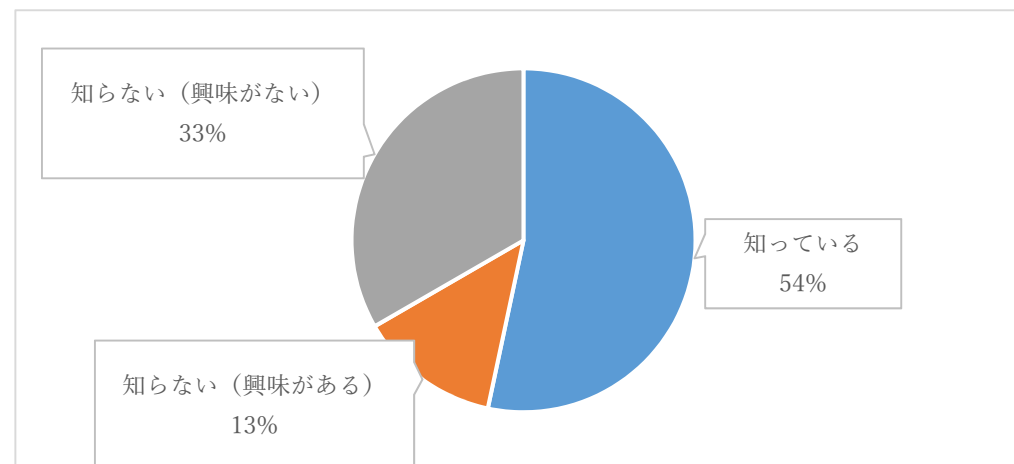
問1 この1年間に地域活動(ボランティア活動)に参加したことはありますか。

問1	数値	割合
参加した	9	60%
参加したことはない	6	40%



問2 市民のボランティア活動の促進を目的とした「橋本市人材ネットワーク事業」をご存知ですか。

問2	数値	割合
知っている	8	53%
知らない(興味がある)	2	13%
知らない(興味がない)	5	33%

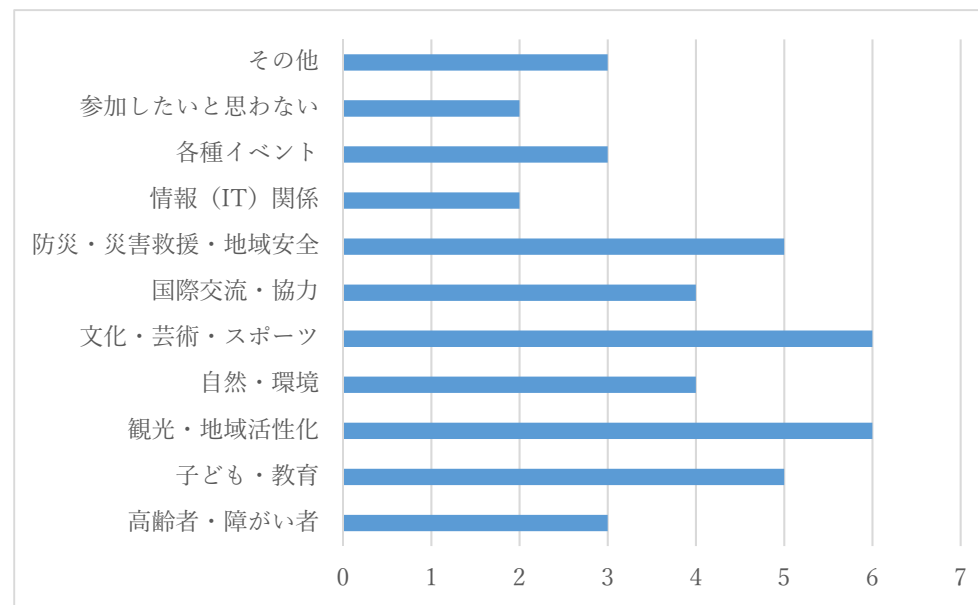


問3 今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。

問3	数値	割合
高齢者・障がい者	3	7%
子ども・教育	5	12%
観光・地域活性化	6	14%
自然・環境	4	9%
文化・芸術・スポーツ	6	14%
国際交流・協力	4	9%
防災・災害救援・地域安全	5	12%
情報（IT）関係	2	5%
各種イベント	3	7%
参加したいと思わない	2	5%
その他	3	7%

その他の回答

- ボランティアでなくてはできない活動
- 紀ノ川を清流にするための活動
- H20.4 から、地域づくりとして取り組み中

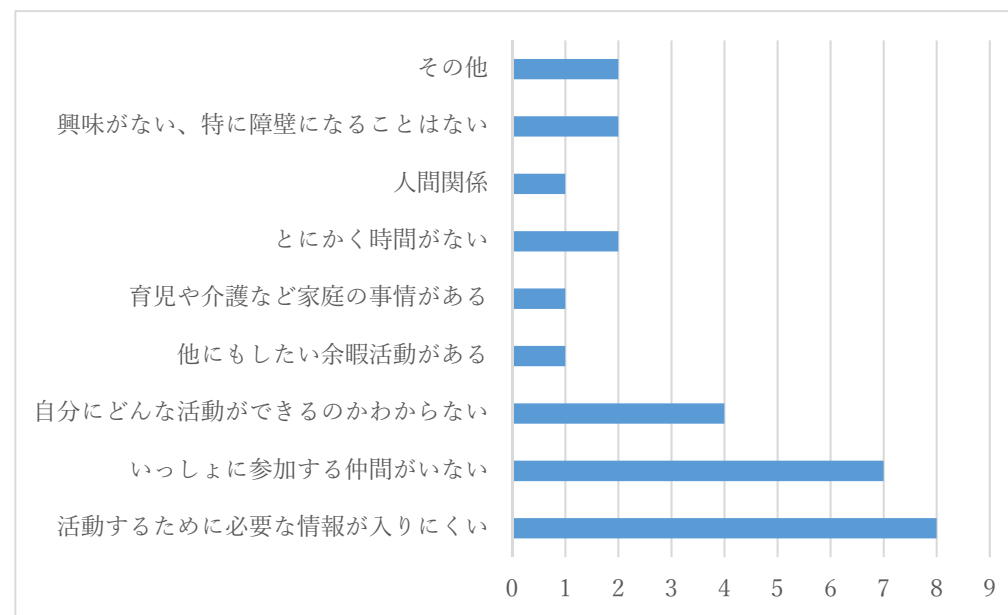


問4 ボランティア活動に参加する上で、不安や障壁になると思うのは、どのようなことですか。

問4	数値	割合
活動するために必要な情報が入りにくい	8	29%
いっしょに参加する仲間がいない	7	25%
自分にどんな活動ができるのかわからない	4	14%
他にもしたい余暇活動がある	1	4%
育児や介護など家庭の事情がある	1	4%
とにかく時間がない	2	7%
人間関係	1	4%
興味がない、特に障壁になることはない	2	7%
その他	2	7%

その他の回答

- その活動を続けると地域が良くなるビジョンがみえない
- 後継者づくりに悩んでいる「共助の人材養成」

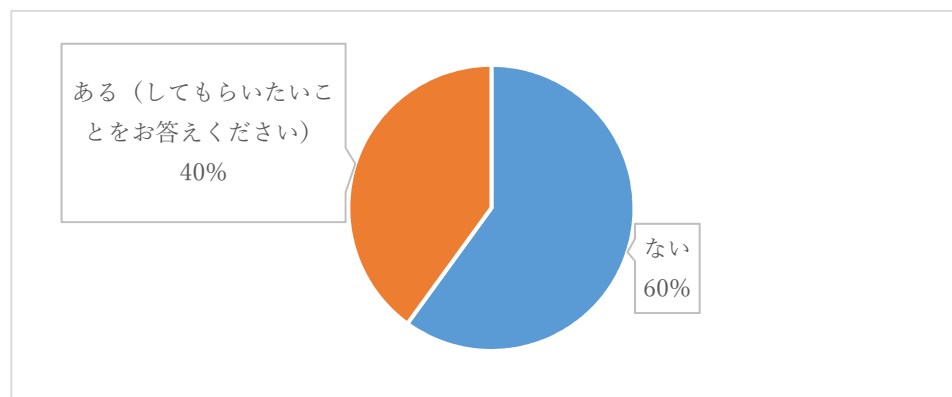


問5 自分がボランティアをしてもらおう（受ける）立場として、してもらいたい（受けたい）ボランティア活動はありますか。

問5	数値	割合
ない	9	60%
ある（してもらいたいことをお答えください）	6	40%

あると答えた方の内容

- 町内会の役員の仕事
- 自分が一人の場合なら掃除・洗濯等です
- 補充学習（小中）、科学教室、天文教室



■庭の手入れ

■市内の遊歩道を整備し、安全なものとする。

■未整備竹林や荒廃地の整備

問6 ボランティア活動についてご意見があればお答えください。

■ボランティア精神は、企画が十分でない活動や効果の不明な事業を繰り返すと、活動意欲が損なわれます。継続的に開催されているものでも、当初目的が果たされていたり、時代背景が変わっているものがあるかもしれませんので、取捨選択が大切と感じます。

■今までに、したことが無いので、良く判りませんが、自分出来る、パソコンの指導やエクセルの表計算の指導とか、ならば、出来る可能性はあります。

■今回の政策モニターの意図がわかりにくい。意思と方向性を準備して情報発信してからにしてもらいたい。

■活動したい人はたくさんいると思います。保険や間に入る人（もの）があればもっとたくさんの方が参加できると思います。参加する方が健康にもいいと思います。NPO 法人でもいいし、外郭の団体でもいいと思います。小学校は放課後学習の場がありますが、中学校はないのは残念です。（塾に行くしかないようです）個人的意見ですが、各公民館も中学校の学習を見ないといけないと思います。毎年和歌山市まで行ってボランティアをしています。（おもしろ科学祭り・このようなものを橋本でもと思います。）

■上 5 の質問解答欄に書きましたが、ボランティアをしてもらいたい、という言い方に違和感があります。ボランティアは安価な労働力ではありません。ボランティア活動をするに当たってはモチベーションが必要で、それは一人ひとり違い、他人や行政が押しついたり決めつけたりするものではありません。

行政は様々な活動メニューを準備することは必要と思いますが、それをするかどうかは個人に任せるしかありません。ボランティアの語源のとおり自ら進んでやるのがボランティアであり、やらされ感を持ったとたんにボランティアではなくなると思います。つまり、ボランティアを希望する人が何をやりたいと思っているのかを把握しそれを応援する役割を行政にしてもらいたいと思います。

しかし、今社会に他人を思いやる余裕が無くなっている、また、経済的な余裕もなくなる中でボランティアに時間を割こうと思う人は少ないでしょう。でも、だからこそお金に代えられない人とのつながりや笑顔を得られる場としてのボランティア活動が広がるように、前向きな気持ちで施策を進めてほしいと、思います。（書き込みスペースが狭いので自分の書いたものをしっかり見返すことが難しく、意味の通らない文になっているかもしれません）

■和歌山県北部の中心都市として、諸施策を発信する中で、色んなイベントを企画された場合、私のできることのボランティア活動が出来ればと思います。

■橋本市を将来どのようにしたいかを、多くの人で何度も話し合える場を作って欲しい。その中から市民のためのボランティア活動が出てくると思う。基本は、橋本市をどのようにして「水と空気がきれいなまち」にしていくかだと思う。

■H20.4 から、当自治会は近い将来訪れる超高齢者地域で、終生住み慣れた土地で暮らしとおせる地域づくりに取り組んでいるが、お蔭で当地域の高齢者は、

平均寿命と健康寿命の差がなく健康者揃いです。地域におけるボランティア活動は、目指す目標に参加者全員に参加して貰える環境づくりとホローだと思います。協働の町づくりも、地域全体がボランティアであり、ボランティア活動という意識があるかぎり成功はしない。と思います。強いて言えば先頭に立つ者がいて、受け入れて貰える環境づくりが、ボランティア活動だと思います。

- 共助の考え方は重要だが、農村地域での高齢化や住民意識の低さがネックになっている。意識の高い地域(例えば市北部の住宅地域)との交流機会・催し等を設けて、地域間格差をなくす底上げ活動が必要。